

高等学校の地域キャンパス化について

高校教育課

平成 23 年 4 月に、犀峽高等学校を以下のように地域キャンパス（分校）化する。

1 実施時期

平成 23 年 4 月 1 日

2 センター校（本校）

篠ノ井高等学校

3 今後のスケジュール

- ・ 平成 22 年 9 月議会定例会において高等学校設置条例第 3 条による議案提出
- ・ 平成 22 年 12 月議会定例会において高等学校設置条例別表を改正

【参考】地域キャンパスについて

（1）地域キャンパス化の理由

1 学年 2 学級規模の定員に満たない学校の再編基準は、2 年連続して全校生徒数が 160 人以下の場合、地域キャンパス化、他校との統合、募集停止のいずれかとするものである。犀峽高校の場合、平成 20 年、21 年と全校生徒数が、再編基準の 160 人を下回り、地域や学校関係者とともに、今後の学校のあり方について、平成 21 年度中に検討するとし、犀峽高校のあり方懇話会、犀峽高校のあり方に係る地域懇談会等をおし、地域の声を聞きながら検討を進めてきた。

その地域で高校教育を必要とする生徒達もいることから、地域キャンパスという形で地域に学びの拠点を置き、高校教育の機会を保障していく。

（2）本校選定の考え方

センター校（本校）については、同じ通学区（長野市）内の生活圏の近い所にあり、学科等の教育課程に共通性があることなどを基準として選定することが学校運営上望ましいことから、最寄りの普通高校である篠ノ井高等学校とした。

犀峡高校の地域キャンパス化について (仮称) 篠ノ井高等学校犀峡校

小さなキャンパスが拓く大きな可能性
応援します！

生き生きと活動できる高校生活

大学・短大・専門学校・就職・公務員などへ

充実した高校生活を送りたい

静かな環境、少人数の学習講座

国公立大学に進学したい

看護医療系に進みたい

自分を磨き生きる力を育みたい

体験的な学習活動

自分の可能性を広げたい

学び直しによる基礎学力向上

■センター校との交流・連携

◇学習環境や進路指導資産等の活用

◇合同模試・データの共用、進路情報の活用など

◇生徒会・部活動などでの交流・連携

3年間を見通した進路学習指導体制の確立

■学習指導の充実

2コース制

進学コース

個々の進路希望に応じた
発展的学力の向上

総合コース

基礎学力定着(学び直し)のための時間の設
定(週2~4時間)

◇少人数学習

◇I期・II期補習のほか、各種特別補習の実施

◇集中学習会(学習合宿)

◇英語検定・漢字検定など各種検定の実施

■キャリア教育の充実

○職業観・勤労観を育みます

○自己の個性を理解します

○主体的に自己の進路を選択・決定する能力・態度を
育てます

◇自己理解・適性・職業観などの意識の高揚

◇職場・職業体験の推進

◇進路に応じた作文・小論文や面接の個別指導

◇企業訪問、大学・短大等見学会の実施

◇進学・就職・公務員模試の有効活用

■ライフスキルを高める教育実践

対人関係・コミュニケーション・意志決定など、日常生活に直面するさまざまな問題に、適正に対処するのに必要な能力を鍛えます

◇小中学校との交流・連携

・小学校遠足ボランティア

・中学校への出前授業・部活動交流

◇地域に出て行う福祉体験やボランティア活動

・社会福祉協議会との連携

・久米路荘草取り

◇地域の資産を活かした交流・体験授業

・地域の人材活用

・博物館・美術館との連携

◇地域との交流事業

・バラ園の整備・開放

◇サポート体制の充実

・スクールカウンセラーとの連携

・スクールソーシャルワーカーとの連携

地域や生徒の期待に応える地域キャンパスをめざします

～ 緑の風と犀川の清流とともに 夢を育み夢に近づく ～

地域キャンパス化（分校化）に係る経緯について

[主に犀峽高校関係]

高校教育課

平成 17 年度

○高等学校改革プラン実施計画 [H18. 3. 30]

平成 19 年度に中条高校と犀峽高校を統合し、地域に根ざした普通科 3 学級募集の新校を設立

平成 18 年度

○高等学校改革プランに係る 9 月県議会臨時会 [H18. 9. 13~15] の採決結果を受けて

[教育委員会定例会 H18. 9. 26]

高等学校設置条例第 3 条に基づく、高等学校の統合に関する議案 9 件のうち、中条高校と犀峽高校の統合を含む 6 件が不同意となり、飯田市内校の統合を除き、5 件の統合を凍結とした。

平成 19 年度

○高等学校改革プランの今後の進め方について [教育委員会定例会 H19. 6. 14]

1 学年 2 学級規模の定員に満たない学校の再編基準の決定と、凍結した計画をいったん取り下げて新たな再編計画を策定することを示す。

○高校再編について（中間まとめ）[長野県高等学校長会 H19. 11. 16]

○高校再編について（最終まとめ）[長野県高等学校長会 H20. 1. 31]

3 区は、現在の生徒在籍状況が続くとすれば、再編基準により地域キャンパス化（分校化）する高校が予測されるので、そのあり方について検討していきたい。

平成 20 年度

全校生徒数 119 名 [H20. 5. 1] 基準適用 1 年目

○長野県高等学校再編計画の骨子案 [教育委員会定例会 H20. 6. 11]

地域における教育機会の保障 [抜粋]

現在、2 学級募集の高校は 5 校あって、それぞれに学校のあり方を地域とともに模索しており、地域社会の少子化対策と連携して、魅力づくりの取り組みを継続していく。今年 5 月 1 日現在の生徒数が 160 人を下回る高校については、地域の理解を得ながら地域キャンパス化等の検討を始める。

○長野県高等学校再編計画の骨子案についての意見募集 [H20. 6. 12—H20. 7. 11]

地域における教育機会の保障について意見総数 95

- ・期限を一年間先送りにしてもらえば、160 名は到達できる数である。
- ・平成 19 年度の入学者が少なくなったのは、中条高校との統合が白紙になったためである。

○犀峽高校の存続と発展を求めることに関する提案書・陳情 [H20. 8. 11]

上水内郡西部 1 町 2 カ村議会正副議長会から提出される。

○高校再編に係る懇談会 [長野県庁講堂 H20. 8. 18] 40 人

- ・地域が支え、地域に開かれた犀峽高校が存続できるよう特段の配慮を望みたい。
- ・12 月の再編計画案に地域キャンパス化の対象として学校名が出ると、新聞報道等の風評被害で入学者が減る。学校名は出さないでほしい。

○長野県高等学校再編計画の骨子 [教育委員会定例会 H20. 9. 9]

旧第 3 通学区（第 1 通学区）[抜粋]

犀峽高校については、新たな再編基準に達した 1 年目であり、今後の生徒数の動向を見守っていく。

○犀峽高校の存続発展を願う要望書、署名の提出〔県知事、県議会、教育委員会 H20. 9. 10〕

犀峽高校同窓会、PTA関係者からなる「犀峽高校を支援する会」から提出される。

署名総数 6,914 筆

高校再編の名の下に過疎地域の教育の質を低下させる「地域キャンパス化」には、断固反対するとともに、犀峽高校が現在のままで存続できますよう、特段のご配慮を望みます。

○第 1 期長野県高等学校再編計画（案）〔教育委員会定例会 H21. 3. 18〕

平成 21 年度

全校生徒数 123 名〔H21. 5. 1〕基準適用 2 年目

○第 1 期長野県高等学校再編計画〔教育委員会定例会 H21. 6. 8〕

旧第 3 通学区（第 1 通学区）の【第 1 期内の今後の方針】

全校生徒数が 160 人を下回っている犀峽高校については、地域や学校関係者とともに、今後の学校のあり方について、今年度中に検討する。

○地域の声を反映した犀峽高校の検討を求める意見書〔県知事、教育委員会 H21. 6. 22〕

信州新町議会から提出される。

近年の少子化が進行する中で町議会としても、犀峽高校の発展は、地域の発展と位置づけ、生徒確保の活動に率先して取り組んできました。犀峽高校の果たしてきた役割、実情はもとより、何よりも地域の声をよく聞き、今後の犀峽高校のあり方について検討されるよう強く要望します。

○県議会文教企業委員会への陳情書〔文教企業委員長 H21. 9. 3〕

中村信州新町長から提出される。

小規模な地域高校については、1 学年 2 学級を下回る場合、①地域キャンパス化 ②他校との統合 ③募集停止 のいずれかとする事とされ、犀峽高等学校は正にこの小規模地域高校の対象となるものであります。

その検討に際しましては、地域住民や関係者の声をじっくり時間をかけてお聞きいただき、慎重に進めていただきますようお願いいたします。

○第 1 回犀峽高校のあり方懇話会〔H21. 10. 26〕

○第 2 回犀峽高校のあり方懇話会〔H21. 12. 21〕

○第 3 回犀峽高校のあり方懇話会〔H22. 2. 20〕

地域キャンパス化やむなしという方向で意見がまとまる。

平成 22 年度

○教育委員会定例会〔H22. 4. 8〕

平成 23 年度地域キャンパス開校の方向で、センター校・教育内容等について、地域や学校関係者とともに検討することとする。

全校生徒数 153 名〔H22. 5. 1〕基準適用 3 年目

○第 4 回犀峽高校のあり方懇話会〔H22. 5. 19〕

○教育委員会定例会〔H22. 5. 27〕

平成 23 年度地域キャンパス開校の方向で検討を進めている犀峽高校については、センター校（本校）の候補を篠ノ井高校とする。

○第 5 回犀峽高校のあり方懇話会〔H22. 6. 11〕

○犀峽高校のあり方に係る地域懇談会〔長野市立信州新町公民館 H22. 6. 18〕 30 人

○犀峽高校をキャンパス化せず地域高校生に希望をもてる高校存続を求める陳情書、署名

〔県知事 H22. 6. 25〕

犀峽高校の発展を願う連絡会から提出される、署名総数 75 筆

**「犀峽高校のあり方に係る懇話会」及び
「犀峽高校のあり方に係る地域懇談会」の状況について**

高校教育課

1 第5回犀峽高校のあり方に係る懇話会の概要

(1) 開催日時・場所

6月11日（金）18：30～20：15 長野市立信州新町公民館 2F会議室

(2) 開催内容

- ア 犀峽高校のあり方について
- イ 地域キャンパス校の教育内容について
- ウ 意見交換（主な内容は別紙のとおり）

2 犀峽高校のあり方に係る地域懇談会の概要

(1) 開催日時・場所

6月18日（金）18：30～20：30 長野市立信州新町公民館 2F会議室

(2) 開催内容

- ア 第1期長野県高等学校再編計画について（高校教育課から説明）
- イ 地域キャンパス校の概要について（犀峽高校から説明）
- ウ 意見交換（主な内容は別紙のとおり）

懇話会名等	意見交換
<p>犀峽（旧第3通学区） 第5回 平成22年6月11日 長野市立信州新町 公民館会議室 傍聴者 10名</p> <p>【議題】 犀峽高校のあり方・地域キャンパス校の教育内容について</p>	<p>【犀峽高校のあり方について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域キャンパス校になった場合、企業や大学への推薦枠はどうか。 ○ 現在の枠がそのまま篠ノ井高校に行くことはない。1学級になっても独立してやっていけるよう、教育課程や入学者選抜などは独立してやっていく。 ○ 現在受け入れている発達障害の子供達が募集人員が40人となることで、あぶれてしまうのではないか。 ○ 特別支援を要する子供達を長野県の中でどのように教育していくかという問題だ。各学校にコーディネーターを1名配置し、一人ひとりに対応した指導をしている。色々な学校で特別支援のことを積極的に考えている。犀峽の1学級分が他の学校へ行っても特別支援ができるように考えていきたい。 ○ 「犀峽」という名前は残してほしい。 ○ 校章、校旗、校歌などはどのようにになるか。本校の校歌、校章は使わないということでよいか。 ○ 地域の代表、地域の合意という意味で我々が決定したとなると少々荷が重いのではないか。 ○ この会を含め、いろいろな所で地域の意見を聞いたうえで、教育委員会で決定することとなる。 <p>【地域キャンパス校の教育内容について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域キャンパス化で先生の数が減ると思うが、現在よりもきめ細かい教育ができるように考えてほしい。 ○ 中学校への説明はどうなっているか。 ○ 犀峽高校が小学校との連携を大切にしてくれていて大変ありがたい。是非このような交流を続けてほしい。 ○ 進学コースと総合コースの2コースに分かれるが、20人ずつに分かれても支障はないか。また、先生の手数は1学級分なのか。 ○ クラス募集は40人だが、学びの集団は色々な工夫をし、小さくしてもかまわない。先生の手数は、標準法があるが、それではとても回らないので、大規模校とは違う配慮をしないとイケない。 ○ 教育計画は結構しっかりしていると思う。センター校との交流は。 ○ 文化祭で相互に行き来したり、ギターマンドリンクラブの演奏を本校でしたり、本校だけでは人数が揃わないときに一緒にやることなどが、考えられる。 ○ センター校との関係はあまり考えなくてもよいということなのだろう。1学級の存続のあり方としてキャンパス化を選択したのであって、その方向で教育の充実を考えていくものと理解した。 ○ その地域に子供達が学びたい高校を残していく意味がある。同時に地域性を活かした教育課程をしっかりと作ってほしい。しかし、将来的にはセンター校との様々な交流を考えてほしいと思う。 ○ 地域キャンパス化後のPTAはどうか。また、地域キャンパス化後の学校の具体像は。 ○ PTAは犀峽校を中心とした集まりとなるべきだ。地域の中で勉強ができる、先生方が皆の名前を知っているなど、人間的に濃密な関係ができる中で地域に根ざした学校として一定の生徒数を維持してもらいたい。この学校ならではの特色をしっかりと作ってほしいと思う。

懇談会名等	意見交換
<p>犀峽高校のあり方に係る地域懇談会 平成22年6月18日 長野市立信州新町公民館会議室 参加者 30名</p> <p>[内容] 第1期長野県高等学校再編計画・地域キャンパス校の概要について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域キャンパス校になった場合、大学や企業の推薦枠はどうなるのか。 ○ 犀峽高校が培ってきた大学や企業との繋がりはそのままとしたい。 ○ 特別支援教育などで犀峽高校以外の学校を選択できない生徒が来ている。 ○ 犀峽高校でなければ、という期待はありがたいが、それに代わるものを考えていかなければいけない。特別支援教育はそれぞれの学校でしっかりとやっていかなければいけない。 ○ 懇話会の委員の選定や進め方に問題はないか。 ○ 人選について県から相談があり、より広い方面から声を聞きたいということで信州新町教育長と副町長により組織の長を中心に選ばせてもらった。特に問題はなかったと思っている。 ○ 地域に聞く前にどんどんと決めていくのは、まずいことだ。懇話会は意見を聞く会であり決める会ではない。 ○ 懇話会は、地域の声を聞いて進めてほしいとの意見を受けて、膝を交えた話し合いを行うために設置した。 ○ 今は学校を残す姿勢はあるが、だんだんじり貧になり展望がない。たった7名足りないだけでこの地域から学校を無くしてよいのか。 ○ 分校にしたら、来たいと思う生徒は減る。市内からも来なくなる。 ○ 地域の教育力維持のために、勉強できる環境を作った。教育の機会を地域に残さないといけない。 ○ センター校の選定は懇話会で検討して決めたのか。 ○ 決めたのは教育委員会だが、教育委員会で決める前に懇話会に諮っている。 ○ 地域キャンパス化で教員の数が減らされるのではないか。 ○ 2コースで展開したいという学校の希望には応えられるように教員配置できるようにしていきたい。 ○ センター校と地域キャンパス校に対する県教委の指導・助言はどのようにやっていくのか。 ○ 地元として廃校は避けたいので、学校を残すためには地域キャンパス化しかないと思う。 ○ どんどん減ってお荷物になるより犀峽高校のまま廃校する方がよい。 ○ 中条校の結果が出るまで3年間待ってほしい。結果を見て決めてほしい。 ○ 廃校という方向のほかに、地域キャンパス化という制度を立ち上げていただいた。ありがたい。私自身は何の不足もない。 ○ クラブの連携方法や教員の数が明確にならないと、分校としてのあり方が見えない。 ○ 高校再編の根底には各校の魅力づくりがあるはずだが、センター校が篠ノ井になり、どんな魅力づくりができるのかが明らかになっていない。 ○ 再編計画の中の再編基準の見直しをお願いしたい。 ○ 再編基準についても、地域キャンパス化の基準についても何回も議論を重ねた。時間をかけて流れを作ってきたことをご理解いただきたい。 ○ 県教育委員会の議題とする前に地域へ話をしてきた。パブリックコメント等もとっている。犀峽の件については、その都度、教育委員会に報告してきており、教育委員会では相当な回数扱っている。 ○ 我々は純粋に犀峽高校をどうしたらいいか地元として考えてきた。本日欠席している人の多くは地域キャンパス化を容認していると思う。 ○ 篠ノ井は昔からの付き合いがあるので、センター校として適切だ。 ○ まずはこの会をやってから話を進めていくべきだ。順番を間違えている。「ご破算で願いまして」でお願いしたい。 ○ 懇話会を6回開くなど議論を重ねてきた。その議論をご破算にすることは大変難しいが、様々な意見を参考にさせていただく。

平成 22 年 6 月県議会（犀峽高校地域キャンパス化関係）

高 校 教 育 課

1 議員の発言

(1) 6月25日（金）本会議一般質問 今井正子議員（トライアル信州）

- ・第3回懇話会（2/10）で、突然分校化決定が強行された。P T Aや同窓会の中には、県教委が分校ありきで予定を組んで進めており、一旦決めたことは変わらないとあきらめの声がある。
- ・先生方、同窓会、P T Aが長野市や周辺の中学を訪問し、存続を願って生徒募集に歩き、入学者が増えている。1学級募集にしたら、生徒が行き場を失う。
- ・分校となったとき、地域の中等教育の場として保障し、ずっと残してくれるのか。

(2) 6月29日（火）文教委員会 今井正子議員（トライアル信州）

- ・中条校の様子を見てからでもよいのではないか。
- ・地域の努力で153名まで戻したことを配慮し待ってもらえないか。
- ・より小規模になったときの基準（募集停止）は削除してほしい。

(3) 6月29日（火）文教委員会 藤沢詮子議員（共産党）

- ・2学級規模以下になった場合の3つの選択肢から「地域キャンパス化」を選択し学校を残したことは、地域の一定の要望を取り入れた形になっているかとは思ふ。
- ・キャンパス校として残すことを全て否定するわけではないが、平成18年の失敗（議会不同意）を教訓に、取組む過程で地元の要望に真摯に応えてほしい。
- ・犀峽が発展する方向、できれば存続の方向で考えてほしい。

(4) 6月30日（水）文教委員会 小林伸陽議員（共産党）

- ・学校を残してほしいという地域の意見はどこにもあり、その中での再編の議論は理解している。分校化と存続の費用対効果の比較はどうか。
- ・分校になったときに入試、就職、大学推薦など今までの枠は残されるのか。
- ・分校後にも入学生が増えるくらいの魅力ある学校づくりへの努力が必要。
- ・地域に見通しの立った説明をして、要望も聞いて、合意形成をしっかりとやってほしい。

2 請願・陳情について

(1) 継続案件について

陳第286号と陳第329号について今井議員から改めて採決を求める提案があった。

- ・藤沢議員「6/18懇談会では賛成意見はほとんど無かったと聞いている。引き続き地域の関係者と粘り強く話し合いをしてほしい」
- ・村石議員「地域懇話会の段階なので、継続審査としたい」

以上の意見を聞いたうえで、採決した結果「継続審査」となった（賛成6反対2）。

(2) 新規の陳情について

「犀峽高校をキャンパス化せず地域高校に希望をもてる高校存続を求める陳情」

提出日：6月25日（6月議会締切り後の提出であるため、9月議会で審議予定）

提出者：犀峽高校の発展を願う連絡会75名

陳情内容

- ・犀峽高校をキャンパス化（分校）ではなく現在のまま存続して下さい。
- ・実情に合わない高校再編計画を見直して下さい。
- ・前回同窓会が中心で存続を訴えた6000余名の陳情を反故にされないようお願いいたします。



犀峽高校をキャンパス化せず
地域高校生に希望をもてる高校存続を求める陳情

平成22年6月25日

長野県知事 村井 仁 様

犀峽高校の発展を願う連絡会
長野市信州新町上条509の

酒井隆



ほか74名

(陳情事項)

1. 犀峽高校をキャンパス化(分校)ではなく現在のまま存続して下さい。
2. 実情に合わない高校再編計画を見直して下さい。
3. 前回同窓会が中心で存続を訴えた6000余名の陳情を反故されないようお願いします。

(陳情理由)

日頃から犀峽高校に深いご理解とご支援をいただき感謝申し上げます。

犀峽高校は大正10年に牧郷村教員養成所として創立されました。昭和24年に県に移管され長野県犀峽高等学校となり昭和63年には現在の地に新築移転され今日に至っております。創立期には地域住民の教育に対する熱い思いのなかで土地の提供や多額の拠出により組合立としてスタートして以来1世紀に近い歴史を数え今日まで多くの人材をこの地より輩出してまいりました。近来においては平成19年から「新生犀峽フォーラム」として、学校と地域が一体となって活動し魅力ある地域高校として数値に頼らない存在価値を示す人間教育をし内外から注目を集める教育実践をされ今日に至っております。そんな矢先浮上した高校再編問題が県行政のなかで取り上げられ県教委より高校再編整備実施計画が示されました。その中で犀峽高校はキャンパス化(分校)案に組みされるに至り、生徒や父兄を始め関係者に大きな不安と失望あたえております。

これまでの経過は下記の通りで進んできましたが地域にとりまして歴史的な大きな問題であり県当局として地域住民の意向に添った英断を望むものであります。

県教育委員会は第1期県立高校再編計画に添い信州新町に「あり方懇話会」を設置し2009年10月26日を第1回として5回開催してきました。

- ・ 懇話会は県教委3名を含む15名で小・中学校長2名 小・中学校PTA2名 同窓会3名 信州新町支所長その他で、ほとんどの人が地域から選ばれた人ではありません。
- ・ 県教委は懇話会とは別に委員を個々に訪ね「今のままでは廃校になる」、「廃校より分校にと」説得をしました。懇話会とは県教委が意見を聞く会であり集約する会ではないはずです。
- ・ 住民説明会(本年6月18日)前に本校を決める、開校は平成23年など地域を無視した拙速なやり方に反対意見があいつぎました。

県教育委員会の再編計画に目安として示された再編基準のⅡについて

(全校生徒が160人以下でかつ卒業生の半数以上が当該高校へ入学している中学がない場合)

- ・ この件については生徒数も平成21年123名、平成22年153名と上向いています。また半数以上の入学する生徒の中学校がないということですが信州新町中学校からは毎年3割以上の生徒が犀峽高校に入学しております。7名が不足で160名に満たないとするのは再編計画が機械的で地域事情に合わなく人間教育を大事にする長野県教育とは大きくかけ離れたものとなります。
- ・ 更には不登校の生徒を多く抱える教育現場で悩む生徒や父兄、関係者に光明を照らし希望を与える入学活動しております。
- ・ 分校化した場合、本校があるのにわざわざ分校に生徒はきません。生徒のクラブ活動も思うようにできず生徒から見た魅力ある高校と程遠くジリ貧に手を貸す教育行政になってしまいます。

よって当地域にとって大事な犀峽高校を従来通り存続していただき、再編計画を実情に合った見直しを強くお願いすると共に、この地に唯一の県の公的施設を継続維持できますよう重ねてお願いします。